

## 生物多様なごや戦略 第5回策定会議（要点）

日時:平成21年12月25日(金) 13時00分～16時00分

場所:名古屋市公館1階

出席者:

### < 策定会議委員 >

氏名	専門家会議	しみん検討会議	所属・役職等	出欠
安田 喜憲	座長		国際日本文化研究センター教授	出席
向井 清史	委員		名古屋市立大学大学院経済学研究科教授	出席
海津 正倫	委員		名古屋大学大学院環境学研究科教授	出席
芹沢 俊介	委員		愛知教育大学自然科学系生物領域教授	出席
辻本 哲郎	委員		名古屋大学大学院工学研究科教授	出席
下田 路子	委員		富士常葉大学環境防災学部教授	出席
土屋 泰広	委員		(株)コンボン研究所取締役	欠席
千頭 聡	委員	世話人	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	出席
香坂 玲	委員	世話人	名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授	出席
長谷川 明子		世話人	生物多様性アドバイザー	出席
広田 奈津子		世話人	生物多様性アドバイザー	出席
新海 洋子		世話人	なごや環境大学実行委員	出席
内木 哲朗		世話人	中津川市職員	出席
矢部 隆		世話人	愛知学泉大学コミュニティ学部教授	出席

### < 事務局出席者 >

氏名	所属・役職等
山田 雅雄	副市長
小島 敏郎	名古屋市経営アドバイザー
加藤 正嗣	名古屋市環境局顧問
小林 明生	名古屋市環境局理事
増田 達雄	名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室長

### 配付資料

- 資料1 生物多様なごや戦略策定会議の構成
- 資料2 生物多様なごや戦略の策定に向けた流れ
- 資料3 生物多様なごや戦略(最終案)
- 資料4 戦略の具体化に向けた手法について
- 資料5 生物多様性に関わるスケジュール

## ( 1 ) 今後のスケジュールと本日の進め方について

増田

(資料-2戦略策定の流れ、次第で本日の会議の流れを説明)

## ( 2 ) 生物多様なごや戦略 ( 最終案 ) について

増田

戦略は行政内部だけでなく、市民の気づきのツールとしたい。市民目線で見てもわかりやすいもの  
としたいので、先生方にはそういう視点で意見を頂きたい。

(資料-3戦略(最終案)の説明)

安田

改善した方が良い点など意見をほしい。

香坂

p39の食料自給率は括弧書きでカロリーベースと書くべき。

p16,67,68では、他の都市と比べて名古屋にはどんな特色があるのかも記載するとよい。

p4,55,56で名古屋は貿易を通じて世界とつながっているという話があるが、p55,56で輸入の話の後、  
国際的に見たときのつながりが失われているという視点(国際的なアンバランス)を入れては。

下田

p9で生物多様性に関して説明されているが、教科書的であり、市民に理解されるか疑問。特にp72  
から生物多様性という言葉が繰り返されている。

シラタマホシクサ、ハッチョウトンボ、トキのような固有の種が生物多様性、という表現に見える。生物  
多様性は、一定のものではなく、いろいろな質があり、戦略ではどんな生物多様性を目指すのかを示  
す必要がある。

p72,79に「生物多様性を再生し」とあるが、名古屋でもいくつか良好な生物多様性が残っているので、  
まず生物多様性を「保全」し、次に再生するという表現がよい。

向井

香坂委員の意見と重なるが、アクションの部分が名古屋市的であり、世界的な視点がない。220万人  
都市としての世界に訴えかけるような方針があつてよい。

海津

p83～86のイラストはもう少し具体的なものが見えるようにしてほしい。もっとイメージが湧くような絵や  
写真(フォトモンタージュ)としてほしい。現存する住宅地がどのようになるか、など。

矢部

向井先生と関連するが、p57の失われてきた地域のつながりで、伊勢湾流域圏の中で名古屋が中心  
都市として果たすべき機能をもう少しふくらましてほしい。モノは入れざるを得ないが、何を発信でき  
るか。

広田

p4で生物多様性が失われているという危機感をもっと伝えた方がよい。

生物多様性のためにできる具体的な取り組みを入れるとよい。(資材を間伐材にする、輸入をアジアからにする、食材を愛知県産にする、企業敷地内に在来の木を植える、庭で野菜を育てる、緑のカーテン、小川の再生、夏祭りを歳時記に合わせて消費電力を抑える等文化を見直すなど)

#### 千頭

生物多様性を考える上で市民がどう関わり、貢献できるかというメニューを入れたほうがいい。  
p48の図では、藤前干潟がただ残っているように読める。簡単に残ったわけではないし、このままでいいわけではない。名古屋は世界の生物多様性に対してどのように関わられるか示すべき。

#### 長谷川

p38の土地区画整理の変遷図には、凡例を入れてほしい。  
生き物を「保護」することが最優先であることを示すこと。  
多くの市民には危機感がなく、生物多様性は自分には関係ないと思っている。COP9で示された危機を数値で示してほしい。  
持続可能な4つのラインのうち、名古屋市がどれを目指すのかを明記すべき。  
戦略の内容で、エコシステムアプローチに沿っている部分では、生態系の機能システムの保全や順応的管理の説明をすべき。  
市民や銀行などが具体的に行動できるような内容をいれてほしい。

#### 芹沢

p18の丘陵地の絵に常緑広葉樹とあるが、この地域はもっと草地的環境で、森は部分的であった。  
p25, 26は絵が矛盾している。江戸時代はp26のように森が茂っていなかった。  
p47では名古屋周辺でしか見られない生物として、シデコブシが出ているが、マメナシの方がよい。  
p11を見てわかるように、現在の姿をベースに100年後の姿はイメージできない。絵はこのままでいいのでは。

#### 香坂

p98で示された名古屋市の他の戦略と本戦略との関連性を示せるとよい。  
p37に緑被地の減少の話があるが、名古屋市は民有地対策をする必要がある。  
p59の安全の話では、安全は基準を作ればいいが安心には心理的な要素が含まれる。生物多様性が安心だけでなく、災害をもたらすことも明記すべき。安心をどう担保するか、もう少し内容を膨らませても良い。

#### 辻本

エコシステムアプローチの話の基調に書くのは難しいと思うが、総論では触れるべき。持続可能性の4つの軸を入れて、その1つが生物多様性であることを入れてほしい。  
全体的に、戦略に名古屋の品格、名古屋が持っている価値をもう少し入れた方がよい。名古屋が周囲から収奪してきたもの、名古屋が持つポテンシャル、大都市としての責任をしっかりと書くべき。  
その上で、生態的に見てホットスポットである名古屋が生物多様性に一生懸命取り組まなければいけない理由を示すべき。

#### 小島AD

p9では生物多様性の説明が教科書的ということだが、欧米人と違い、日本人は「多様性」をプラスの価値だとは思わない風潮や文化がある。このため日本人に生物多様性をPRしてもなかなか浸透しないのではないかと。

p55で、都市は世界に依存しているとあるが、だからどう責任を果たす必要があるか、まで書くべき。

ロンドンでは大きな空地があり公園につながっているが、日本の都市は公園が小さい。戦略の空地の集約について、ロンドンなどをモデルを示しては、

辻本

「生態系の構造と機能」という視点が書かれていない。どんな生態系の構造と機能が生物多様性に関わっているのか、生態系サービスを生み出しているのかが書いていない。

法アセスの項目では、生物多様性の代わりに生態系が入っている。生物多様性を守れば、生態系の機能が守られるということを総論に入れるとよい。生態系アセスのガイドラインなど示しては、

安田

その部分の文章を辻本先生と長谷川先生に市民にもわかりやすい文章で書いてほしい。

加藤

市民が戦略をどのように自分のこととして認識できるかがポイント。生物多様性が大事、というところまでは理解できると思うが。

p70のなごやをめぐる危機では、都市住民の3つの危機が示されている。

環境悪化の責任は都市という意見がある一方で、都市が人口増加を吸収しなければ環境はもっと悪化したかもしれないという意見もある。都市の責任論だけでなく、都市の果たす機能も入れるべき。

p69,70は項目が多すぎる。一番右側の3項目に焦点が当たるようにまとめた方がよい。

安田

p69,70はインパクトが少ないので再考してほしい。

内木

各頁に読み手に考えるきっかけを与えるリーダー(挿絵)を入れてほしい(キャラクターが危機感を語るなど)。

矢部

p9やp47の内容で名古屋の生物を強調することは無理がある。名古屋には大阪の市立博物館のような拠点機関がなく、情報や素材がない。芹沢先生が言うような拠点機関の話盛り込むべき。

安田

p9のコラム部分は、芹沢先生、下田先生、矢部先生、長谷川先生に文章、写真を提案してほしい。

芹沢

それは情報が無いので無理である。

戦略には名古屋市が過去に行ってきたことの反省が入っていない。過去のいいこと、悪いことを反省しないと建設的な提言はできない。

安田

小島先生、香坂先生には名古屋らしさ、ほかの都市との比較について書いてほしい。

今回戦略に過去の写真を載せたことはいいこと。

p23の富田荘の例では、中世の絵図、地名が残っており、名古屋市民の誇りとなり得る。

p26の森ははげ山であるべきであり、ここにはげ山の写真を入れることも大事。

p28は、外国人が撮った筏流しの写真を入れるとよい。

p40は、昔のかまどや風呂の写真を入れるとよい。

p60は、伊勢湾台風当時の被害写真を入れるとよい。

p61は、熱帯雨林の破壊やゴミの写真を入れるとよい。

p83以降の100年後のなごやの姿の絵はよいと思う。30年前に未来の都市の姿を描いたことがあるが、モノレールや高速道路など都市の絵だった。30年たつと、こんなに未来像が変わるのかと驚いた。市民に絵を描いてもらうことは歴史的に意味がある。

戦略は歴史性に焦点を当てている。生物の基本は生命であり、生命は歴史的なつながりの中で生まれてきて、未来に対して責任を持つべきであるという提言は大切である。

事務局は、今日頂いた15点ほどの意見を踏まえてほしい。

海津

p83～p86の絵は一般的である。絵には戦略の具体的な内容が表れるようにすべきでは。

矢部

絵は、戦略の反映ではなく、市民の意思や考えを表現したもの、とすれば、この絵を30年前に書かれた未来の絵と比較すると面白い。

海津

市民の描いた生の絵を入れることはできないか。

辻本

戦略が100年後のイラストに結びついていることを示しては、戦略と100年後イラストの間でストーリーが切れてないか。

安田

戦略1～戦略4にそれぞれ関連する絵を入れてはどうか。

加藤

絵と戦略の順序を替えては、市民は論理的分析なく、即時的に100年後の姿を書いただけであり、それを踏まえて、私たちが2050年の戦略を作ったというストーリーの方がよい。

広田

p36の過去や現在の絵からp83の将来の絵に関連付けさせてはどうか。100年前はこうだったが、未来はこうできる、というリンク付けができればいいのではないか。

千頭

100年後の姿は積み上げて書いた絵ではないので、その一つ一つの要素と結びつけるべきではない。

4章の(1)と(2)を逆にしてはどうか。

芹沢

p68の後に100年後の姿を入れてはどうか。

市民の絵に説明をつける必要はない。

社会情勢の変化に続いて、市民の意識の変化として入れられるのではないか。

千頭

戦略を誰が担うのかという話につながるので、そのプロセスを重視するなら4章では。

新海

市民は子供たちがどんな名古屋に住んでほしいかという思いをもって絵を描いている。戦略は絵を実現するためのイメージとして位置づけてほしいので、4章で先に示す方がよい。

### (3) 戦略を活用するための手法について 具体化に向けた手法

増田

(資料-4戦略の具体化に向けた手法について説明)

100年後の姿の件、今回は戦略の前に絵を入れていた。事務局で考えた結果、絵が後ろだと、2050年の具体的なイメージと言えらと思った。p82に市民が絵を描く前提を入れることも検討する。

芹沢

生物多様性の拠点施設について記載されていない(別途資料配布)。資料に示すように、生物多様性の基礎調査がなければ、戦略は信頼されない。基礎情報は、独力で集めるべき。

資料4の戦略1、方針2、目標1「生物種の保全再生につながる研究や保護活動」では、保全再生をする前に基礎情報が必要。戦略も具体化し、実現性を持たせるには基礎情報が必要。

ネットワークはすでに存在する。名古屋市が情報を持っていないのでそれに参加できない。自ら情報を集めなければ情報は集まらない。

安田

資料4の方針2に示した情報交流ネットワークではなく、情報交流拠点を入れるということか。

芹沢

「研究機能を持ったセンターをつくる」としてほしい。

安田

資料4を戦略4章の100年後の姿の後に入れてはどうか。

増田

資料4はあくまで想定される取り組みである。戦略への記載については検討させてほしい。

千頭

資料4の戦略1方針1目標1「良好な自然スポット」の調整先にNPOを入れるならば、他の項目にもNPOが入るべき。調整先は、責任をもつべき行政のみの記載として割り切ったほうがよい。

向井

資料4は、市民が受身で、行政指導でやるという印象。

専門家レベル取り組みと市民レベル取り組みとは分けて議論すべき。一緒にしないほうがよい。

ムーブメントを起こすことが重要。

拠点施設として、大学を活用することも考えられる。

人の育成(特にNPOに相当する人)という視点が欠けている。行政と市民をつなぐ中間の部分はどうするか示してほしい。

### 効果的なしみんへの発信

倉田

(資料-5生物多様性に関わるスケジュールの説明)

新海

(戦略p91間伐材プロジェクトの紹介)

戦略は、様々な立場の人たちが使えるツールとなるとよい。

矢部

(戦略p95生物多様性センター勉強会の紹介)

来年には200人規模の勉強会とし、COP10後には設立準備会がつかれるようにしていきたい。

安田

2件具体的な活動を紹介してもらった。それ以外でもいいので意見を頂きたい。

長谷川

COP10のテーマに里山があるが、現在、里山が売られている状況にある。戦略の中に、財政や都市計画の見直しも入るとよい。

COP10を契機に里山を買い戻したというような話があってもいいのではないかと。名古屋の都市の品格という話にもつながる。

広田

開発やそれに絡むお金の流れの現状を市民も知った方がよい。

森を取り戻すプロジェクトには銀行が貸付の利子を猶予するなどの仕組みも考えられる。

安田

お金の流れに行政はどう関わることができるか。

小島AD

資料4の戦略2方針3目標2には、企業の社会的責任という項目がある。金融機関も融資にあたって、生物多様性の影響を考える流れが始まっている。戦略に金融機関の配慮を記載すべき。

平針の例は特殊であり、現市長就任前日に手続きが行われている。市の責任は重い。都市計画における生物多様性の配慮という項目は入れてほしい。

向井

ある公園で子供が安全に遊べるように木を伐採する事例があった。生物多様性の保全にはコミュニティの再生も重要。

既存制度の積極的な活用の中で、開発関係の話では、容積移転を使い、お金をかけずに緑を残せる余地があると思う。強力な手法だと考えている。

長谷川

名古屋市に生物多様性Gメンのような継続して指示、指導できる人を配置することも重要。

香坂

金融機関の取組みは緑化地域制度などを使って金利の優遇など多少ではあるが始まっている。滋賀銀行が生物多様性に関わる基準を入れている。

安田

取組内容に実施時期を入れるべき。市民への説得力がある。

実現時期として、コミュニティの再生は短期、生物多様性Gメンは短期、金融機関は既に始まっている。

小島

p73、戦略1、方針1、目標1 既存制度の積極的な活用に「都市計画制度の運用における生物多様性への配慮」を追加。

P74、戦略1、方針3、目標1 は書き方が弱い。「工事における配慮」とする。

千頭

来年以降の戦略の進行管理を明らかにすべき。資料4の内容は名古屋市の関係部署が責任を持って  
ばよいが、もっと市民が入った管理の仕組みを入れるべき。

広田

地域委員会の予算に、生物多様性に配慮するガイドラインを作成して示すことはできる。

安田

戦略の進行管理は4月以降の課題であり、今回は戦略の大まかなフレームワークを作っているので、  
市民との連携の中で進めるという大枠を示せばよい。

議論のあった内容について、多数決により、第4章(2)100年後の姿は、(1)の前に持ってくる。

戦略の方針の中に、資料4に近い資料を入れた方がよいと思うが。

増田

資料4は行政内部の行動計画であり、市民の行動計画なしに行政のみ入れることになるので、もう少し  
検討したい。

安田

実現時期は入れるべき。

増田

実現時期は色を変えるなど表現方法を考えたい。

矢部

「研究機関としての生物多様性センター構築も視野に入れる」という表現を入れたほうがいい。

小林

研究という言葉が入ると専門分野に特化したもののように感じる。

制度改革などの課題もあるが、戦略は市民が気づき、共有し、理解することが大事。

矢部

研究に特化すると市民から離れるという危惧は理解しているが、例えば、名古屋ため池いきいき事  
業では、専門家の指導の下、市民も勉強しながら調査している。集まった標本などを生かせる場とした  
い。

市民の声も強いということは理解してほしい。

安田

P95 4 研究機関という文字はとって、生物多様性センターの整備としてはどうか。

小林

具体的な固有名詞は困る。

加藤

生物多様性センターの表現についてもっと色を強めては、という意見と理解して、検討するということ  
ではどうだろうか。

向井

今の状況で、ストック的なものを作るのは非常に難しいのでは。大学の社会貢献を利用するのも解  
決策の一つである。市民要望に対して行政に責任があるのであれば、大学にも責任がある。地域の知  
的資源を集約して活用していく、というような表現でもよいのでは。

辻本



Gメンや行政とNPOとの関係などの事項は、4つの戦略を超える話では。戦略自体をどう実行し、監視し、調整するかという観点である。

安田

資料4の表は見やすく、具体性がある。このように4章も示しては、

加藤

表のように細かく表現すると、例えば資料4 戦略1、方針1、目標1 は具体性が乏しいように、表現が陳腐化することもある。

安田

表現方法は事務局に検討してほしい。本日の意見をもとに、さらに修正していただき、3月までに完成となる。

増田

修正の上、パブコメ用の資料は個別で先生方の了解を頂きたい。2月にパブコメ、3月に最終まとめの予定。それぞれ、個別にヒアリングさせていただきながら進めていきたい。

小林

(先生方への謝辞)